

## 「社会健康医学」基本計画策定委員会（第2回）について

### 1 前回の議論

#### <研究>

##### 【医療ビッグデータ】

○医療データを情報、知識へと発展させ、健康増進施策に反映することで、静岡県健康寿命の更なる延伸につなげる。

(主な意見)

- ・ 医療ビッグデータと、生活習慣、行動、地域の環境などの要素を上手くつなぐことが必要。
- ・ 65万人の健診データのさらなる活用のため、例えば、時系列ごとに閉じたデータ（各年がつながっていないデータ）をつなげる。

##### 【疫学研究】

○県内各地域における健康、疾病、生活習慣などの特徴的な事象を分析し、健康増進や疾病予防に役立てる。

(主な意見)

- ・ 地域の特性に合った健康増進対策が取られているか分析する。
- ・ 現在の施策の位置付けや課題を科学的知見を用いて把握することにより、今後取るべき優先的な対策を考えることができる。

##### 【ゲノムコホート研究】

○県民個々の遺伝因子や環境因子との関係を踏まえた最適な健康管理や予防対策を導入する。

(主な意見)

- ・ 静岡県に比較的多い疾病を分析する際も、個々の県民の遺伝素因に着目しながら、集団としての県民という観点に基づいた研究が必要。

- ・ 県内におけるゲノムコホート研究の進展により、集団としての県民が有する疾病の発症リスクや因果関係の解明が期待される。

### <人材育成>

(主な意見)

- ・ 静岡県の地域のデータを収集・分析し、科学的な視点を持ってその成果を事業や施策に取り込むことができる人材を育成し、それが県民の健康寿命の延伸に役立つというスキームが大切。
- ・ 拠点で行う人材育成により、医療専門職が先制医療や予防医療に対するマインドを持てるようにすることが必要。

### <拠点>

(主な意見)

- ・ 幅広い研究者が集まってこないと、これだけのプロジェクトは動かない。
- ・ 拠点の整備は、県を挙げてやらないとできない。
- ・ 具体的に研究するなら研究所が必要、人材育成もするなら大学院が必要。
- ・ 医療面を考えると、臨床現場と近い又は医療機関の中にあることが大切。

## 2 第2回の検討項目

### (1) 静岡県が取り組む医療ビッグデータの活用について

### (2) 静岡県が取り組む施策の体系化や臨床研究のための疫学研究について

- ・ 静岡県の健康寿命延伸のために取り組む医療ビッグデータ及び疫学研究の具体的内容や人材育成の手法等について議論を深める。
- ・ 研究を進めるために必要な環境について、拠点のあり方と関連させて議論する。
- ・ ゲノムコホート研究については、第3回委員会で議論する予定。

# 医療ビッグデータの活用 ①

研究領域	医療データの有効活用
研究目的	<ul style="list-style-type: none"><li>○臨床現場にある医療データを、県民の健康寿命延伸に役立てるための研究</li></ul>
研究内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○カルテやレセプトなどの臨床現場にある医療データの収集・整理方法の習得や加工、解析方法についての研究</li><li>○臨床現場で得た医療データを、他の医療機関が持つ医療データや臨床研究と照らし合わせ、臨床現場に役立つ情報・知識とするための研究</li><li>○臨床現場から生じた課題について、現場にある医療ビッグデータを活用して研究し、その研究成果を臨床現場や施策に還元する研究（「医療を変える」研究）</li></ul>
必要な体制	<ul style="list-style-type: none"><li>○県内の医療機関にある医療データの継続的な収集及び適切な管理ができるシステム整備</li><li>○他の医療機関や研究機関との連携研究を主導することができる学識者（研究者）</li><li>○ビッグデータの収集・整理・解析を行うための技術者</li></ul>
育成する人材	<ul style="list-style-type: none"><li>○臨床データの有効活用（臨床統計学）に精通した地域の医療現場で活躍する医療専門職（医師、看護師など）</li><li>○データ解析のための医療統計手法など臨床研究のサポート役となる専門技術者（データサイエンティスト）</li></ul>

## 医療ビッグデータの活用②

健診データの有効活用	
研究領域	
研究目的	<ul style="list-style-type: none"><li>○医療保険者が持つ健診データを、県民の健康寿命延伸に役立てるための研究</li><li>○健診データを医療データ（レセプト）や介護データ（要介護の状態）等と関連付けることにより、健康寿命延伸に役立つ情報として体系的に整備する研究</li><li>○地域の健診データと自治体が行う健康増進施策との科学的関連性についての研究(データの見える化、健康増進施策の科学的評価)</li><li>○健診データを活用可能な形に加工した上で県民に還元することにより、県民一人一人が魅力的な生活を追及しながら自然と健康となることができるような仕組みについての研究</li><li>○定期的な健診受診による医療費・介護費への影響についての研究</li></ul>
必要な体制	<ul style="list-style-type: none"><li>○県内の医療保険者が持つ健診データの継続的な収集及び適切な管理ができるシステム整備</li><li>○他の医療保険者や研究機関との連携研究を主導することが可能な学識者（研究者）</li><li>○ビッグデータの収集・整理・解析を行うための技術者</li></ul>
育成する人材	<ul style="list-style-type: none"><li>○行政や企業などにおける健康づくり実務者（保健師、栄養士、健康づくり担当者など）</li><li>○保険者、企業における健康ビッグデータ分析専門家（データサイエンティスト）</li></ul>

# 施策の体系化や臨床研究のための疫学研究①

研究領域	生活習慣に起因する疾病
研究目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活習慣から生ずる疾病を予防し、健康寿命を伸ばすための研究</li> <li>○生活習慣と健康寿命（死亡・長寿・要介護認定等）への影響についての研究</li> <li>○幼少期から老年期に至るまでのライフステージに応じた健康管理についての研究</li> <li>○本県で地域偏在性のある疾病（糖尿病、高血圧症等）と生活習慣との関連についての研究</li> <li>○本県に比較的多い生活習慣病（脳血管疾患等）と生活習慣との関連についての研究</li> </ul>
必要な体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究に必要な医療データを抽出、分析、加工するためのシステム整備</li> <li>○他の医療機関や研究機関との連携研究を主導することができる学識者（研究者）</li> <li>○健康増進施策を行う主体（自治体、NPOなど）との連携を担うコーディネーター</li> </ul>
育成する人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>○科学的な知見に基づきデータ分析や疾病対策、健康づくりなどを担う医療専門職（医師、看護師など）</li> <li>○科学的知見を取り入れた健康指導などを担う健康づくり実務者（保健師、栄養士など）</li> <li>○医療データの要因分析などを継続的に進めていく役割を担う研究者</li> </ul>

# 施策の体系化や臨床研究のための疫学研究②

研究領域	老化による健康障害
研究目的	○老化から生ずる健康障害を予防し、健康寿命を伸ばすための研究
研究内容	○加齢に伴う認知症と健康長寿の3要素（運動・食生活・社会参加）との関連性についての研究 ○ロコモティブ症候群（加齢に伴う骨や関節、筋肉の運動器の障害）と健康長寿の3要素（運動・食生活・社会参加）との関連性についての研究 ○フレイル（加齢に伴う心身の活力低下）と健康長寿の3要素（運動・食生活・社会参加）との関連性についての研究
必要な体制	○研究に必要な医療データを抽出、分析、加工できるためのシステム整備 ○他の社会福祉施設や研究機関等との連携研究を主導することができる学識者（研究者） ○健康増進施策を行う主体（社会福祉施設、訪問看護現場）との連携を担うコーディネーター
育成する人材	○科学的な知見に基づきデータ分析や疾病対策、健康づくりなどを担う医療専門職（医師、看護師など） ○科学的知見を取り入れた健康指導などを担う健康づくり実務者（介護士、栄養士など） ○医療データの要因分析などを継続的に進めていく役割を担う研究者